

- 日 時：2019年9月15日（日）
- 場 所：立川教会
- 説教者：飯島 信 牧師
- 説教題：「偽使徒との戦い」
- 聖 書：旧約 箴言 25：2-7a（p1023）  
新約 コリントの信徒の手紙二 11：7-15（p337）
- 讃美歌：155「山べにむかいて」 466「山路こえて」

お早うございます。

先の台風の影響は、とても深刻で、未だに千葉県房総半島南部では、電気が復旧しない地域が広くあります。そのため、数万に上る家庭の灯りは未だ灯らず、エアコンも効かず、すでに高齢者施設では熱中症のため亡くなった方まで出ています。そして、今回改めて知らされたのは、冷蔵庫の大切さです。千葉県は酪農も盛んですが、機械で搾乳している農家は、電気が復旧しないため何とか自家発電に切り替えて搾乳したものの、使える電力量に限界があるため冷蔵のタンクを動かすことが出来ず、折角取れたミルクを畑に捨てざるを得ないのです。又、電動ポンプで地下水を汲み上げていましたが、停電中は水も与えることが出来ず、結局えさや水の量がばらついたために、ある農家では飼育していた乳牛約 55 頭のうち 3 割ほどが乳房に炎症を起こしてしまいました。まさに、今回の台風による被害は、あの東日本大震災より深刻であるとの声も出始めていると報道されています。

他人事ではありません。

私たちそれぞれの家庭は大丈夫でしょうか？

ふと、災害が起きた時の教会のことを考えてみました。

教会には現在布団が 6 組、椎さんが寄贈して下さった炬燵布団も入れれば 8 組、8 人までは宿泊出来ます。会堂のソファベッドも入れれば何とか 9 人までは夜を過ごせます。

それに、料理教室で使うカセットコンロが私のも入れて 12 個あり、10 人前後であれば、教会を避難所として 3,4 日は過ごせるかも知れません。

但し、なお、決定的に足りないものがあります。

何でしょうか？

それは、すでにお気づきのように、水です。約 10 人が少なくとも 3.4 日は過ごせる水が必要です。考えてみれば、10 人ですから大変な量です。幸いに保管場所があります。牧師館裏手の倉庫です。昨年教区の研修で被災地を回った後、一時は毎晩お風呂の水を夜の間だけ貯めておいた事もありましたが、長続きしませんでした。

それをどうするか・・・。

いずれにしても、災害が起きてからでは遅く、それぞれが常にいざと言う時に備えて準備をしておきたいと思います。

今朝与えられた聖書の御言葉を見てまいりましょう。

コリントの信徒の手紙二 11：7-15 (p337)、説教題は「偽使徒との戦い」です。

紀元 50 年頃、神様から異邦人伝道への使命を負わされたパウロにとって、彼が直面した福音宣教の最も困難な現実、外からの迫害と内からの攻撃でした。外からの迫害は、それに耐えるか耐え得ないかは自分自身の問題です。しかし、内からの攻撃、即ちパウロが語った福音を捻じ曲げるような間違った教えについては、自分が直接戦うことは出来ず、教会に残された信徒たちの戦いに任せなければなりません。それがパウロにとってどれだけの苦しみであったか、この手紙がよく物語っています。

初めに、この手紙が書かれた宛先であるコリントの町について説明します。

地中海に続くエーゲ海とアドリア海の地峡部に位置し、ギリシア本土とペロポネソス半島を結ぶ交通の要衝に位置していたコリントの町は、古くから裕福な商業都市として栄えていました。しかも、パウロがコリントに来た頃は、ローマ帝国のアカイア州の首都として、ローマ人、ギリシア人、ユダヤ人など多様な人種民族が居住し、『新約聖書略解』によれば、少なくとも 20 万の自由人と 40 万以上の奴隷がいたと記されています。

しかし、この町は、学問的な文化都市としての顔を持つ一方、騒々しく激しい興奮を呼ぶ様々な宗教行事や、パウロが手紙の中で厳しく批判している性的不道徳の問題をも抱えていました。

パウロはこの町に、2 回目の伝道旅行の際に 1 年 6 ヶ月にわたって滞在し、パウロと同業の天幕職人であるユダヤ人夫妻のアキラとプリスキラ、又同労者であるシルワノヤテモテに助けられて教会の基礎を作ったのです。

ところで、7 節 8 節です。

7：それとも、あなたがたを高めるため、自分を低くして神の福音を無報酬で告げ知らせたからといって、わたしは罪を犯したことになるのでしょうか？

8：わたしは、他の諸教会からかすめ取るようにしてまでも、あなたがたに奉仕するための生活費を手に入れました。

このコリントの教会で、一体何が起きたのでしょうか。

実は教会の基礎を作ったパウロが去った後、このコリントの教会に外部から偽使徒が入って来ました。彼らは、パウロの教えを根底から否定する事を人々に教え始めます。即ち、パウロが教えた、人が救われるのはただキリストを信じる信仰によること、又律法に定められた割礼や食物規定からも自由であって良いと言う福音を否定したのです。しかも彼らは、教会が成長するにつれて現れたコリントの教会の裕福な者たちによって、経済的支援を受けていました。

このような偽使徒と一線を画すために、パウロは天幕職人として働き、自給自足の生活を続けるのです。

8節の「かすめ取る」と言う言葉ですが、これは、パウロの自立した宣教姿勢が気に入らない偽使徒たちが、パウロを非難するために使った言葉をそのまま用いて反論しています。

9節です。

9：あなたがたのもとで生活に不自由したとき、だれにも負担をかけませんでした。マケドニア州から来た兄弟たちが、わたしの必要を満たしてくれたからです。そして、わたしは何事においてもあなたがたに負担をかけないようにしてきたし、これからもそうするつもりです。

確かに、パウロの生活は困窮していました。しかし、パウロは自ら天幕職人として働き、コリントの教会の人々からは何の支援も受けず、無報酬で宣教の業に携わります。この事は、あの偽使徒たちとは一線を画するためだけではなく、パウロの誇りでもありました。

10節です。

10：わたしの内にあるキリストの真実にかけて言います。このようにわたしが誇るのを、アカイア地方で妨げられることは決してありません。

コリントの町のあるアカイア地方での宣教、それは神様から命ぜられたものであり、この宣教は誰をもってしても妨げることには出来ないのです。

しかし、このような、コリントの教会を中心とした共同体からの援助を断ることは、教会の人々から見れば、自分たちの好意を無にするという誤解を生んでいました。

ですからパウロは改めて強調するのです。

11節です。

11：なぜだろうか。わたしがあなたがたを愛していないからだろうか。神がご存じです。

こう言った後、天幕職人として働きながら、援助を受けず、自給自足の生活を続けることを宣言します。12節です。

12：わたしは今していることを今後も続けるつもりです。それは、わたしたちと同様に誇れるようにと機会をねらっている者たちから、その機会を断ち切るためです。

機会を断ち切る。

即ち、もしコリントの教会を中心とした共同体の支援を受けてしまったら、偽使徒たちと

同じようになってしまう、その事を恐れました。なぜなら彼らは、13 節、

13 : こういう者たちは偽使徒、ずる賢い働き手であって、キリストの使徒を装っているのです。

主イエス・キリストの福音である律法からの解放を否定する彼らは、まさにキリストの使徒を装っているずる賢い働き手であると言う、パウロの痛烈な批判です。

そして、この言葉にさらに付け加えます。

14 節です。

14 : だが、驚くには当たりません。サタンでさえ光の天使を装うのです。

サタンでさえ、光の天使を装う。

サタンとは、この世の悪魔的な力です。

そして、光の天使とは、闇の支配者ではなく、キリストに仕える者です。

キリストに仕える装いを取りながら、実は悪魔的な力を行使する者、それが現実に存在するとのパウロの指摘です。

しかし、そのような存在を恐れることはありません。

なぜなら 15 節です。

審きの日には、

15 : だから、サタンに仕える者たちが、義に仕える者を装うことなど、大したことはありません。彼らは、自分たちの業に応じた最期を遂げるでしょう。

と言う確信があるからです。

メッセージを作り終えて、思わずフーと溜息をつきました。

福音宣教に燃えるパウロを次々に襲う困難な課題を思ったからです。

当時のユダヤ社会を支配していたモーセの時代から続く律法を否定することは、律法を守ることによって神の国に入ることを信じていた人々からすれば、自分たちの生活を律していた基盤が足元から崩れて行くことを意味していました。割礼も救いの条件ではなく、日々の食べる物の規定も救いには必要ではない。それでは一体どのようにしたら神の国に入ることが出来るのかと言う疑問です。

それに対し、ただ主イエス・キリストを信じる事、それだけが神の国に入る道であると言われた時、一体どれだけの人々が使徒たちのこの言葉を受け入れ、バプテスマを受けることが出来たのかと思うのです。

主イエス・キリストの十字架と復活の事実を目の当たりにした弟子たちを除いて、一体誰があのナザレ人イエスを、主なるキリスト、即ち救い主として告白出来るのでしょうか？ その時に思います。あの、ペトロの信仰告白の場面をです。

マタイによる福音書第 16 章 13 節～17 節をお開き下さい。新共同訳聖書 32 頁です。

13：イエスは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、弟子たちに、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。

14：弟子たちは言った。『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。

15：イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」

16：シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。

17：すると、イエスはお答えになった。「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。」

そうです。

聖霊による導き、ただこれだけが主イエス・キリストを我が罪を救う救い主とする告白を可能にするのです。

聖霊による絶えざる導きを常に祈り求め、私たちそれぞれに与えられた歩むべき道を歩み進もうではありませんか。

祈りましょう。